

通所リハビリ併用利用者と通所介護単独利用者との比較・分析

～取り組みに対する意欲の差について～

デイサービスはなぶさ発表者 介護福祉士 上赤 栄造
共同研究者:看護師 古賀 かすみ 准看護師 濱田 ひとみ
介護福祉士 永井 智喜

【はじめに】

デイサービスはなぶさは平成31年1月より、介護老人保健施設 愛と結の街内に移転し、現在は通所介護と通所リハビリ事業所が同フロア内に隣接している。それぞれが明確な目的(生きがい作りや役割作りを通じて住み慣れた家庭や地域で活動の幅を広げていける)や役割分担して利用者をケアする環境を整えている。その環境下において両事業所の併用利用者が増加しているが、今回は併用利用者と単独利用者の間に取り組みに対する意欲の差があるかについて考察したのでここに報告する。

【対象者】

デイサービスはなぶさ利用者 男性12名 女性19名 合計31名
併用利用者は 男性4名 女性5名 (平均介護度 2.1±2.3)
単独利用者は 男性8名 女性14名 (平均介護度 2.2±2.5)

【評価期間】

令和2年9月1日～令和3年9月30日 (1年間)

【比較・分析の方法】

- (1)単独利用者と併用利用者のバーセルインデックスの変化を調査
- (2)利用者の行動変化について分析

【結果】

- (1)バーセルインデックスの数値では単独利用者と併用利用者には大きな変化は見られなかった。
- (2)評価期間中、単独・併用利用者どちらも介護度は維持出来ていた。
- (3)併用利用者の中には自分から取り組みたい事を開始する意欲向上には大きな変化が見られた。

表1 n=9

	A氏	B氏	C氏	D氏	E氏	F氏	G氏	H氏	I氏
要介護度	要介護1	要介護1	要介護2	要介護2	要介護4	要介護1	要介護1	要介護2	要介護1
やりたい活動の取り組み	学習帳	特にしていない	ネット手芸	習字	特にしていない	自主歩行訓練	塗り絵	洗濯物たたみ	特にしていない

【考察・まとめ】

デイサービスはなぶさでは単独利用者及び併用利用者のADL低下防止に様々な取り組みを行っている。午前中は体操やスクワット・立ち上がり訓練等を取り入れた運動メニューを1時間程実施、午後からはレク活動・体操・脳トレに取り組んでいる。精神的アプローチとして利用者・家族に対する健康管理のアプローチ、利用者の悩み相談や家族への介護相談、ケアマネジャーとの密な連携、利用者の残存機能を生かしたケア、個別・集団レク活動による意欲向上や認知機能改善へのアプローチ(数名には学習帳を活用している)。また、個別機能訓練等で屋内・屋外歩行訓練の充足化を図っている。それ以上に個人差はあるが、自主トレにも進んで取り組んでいる姿が見られた。特に、併用利用者はより積極性が出てきていると思われるが、個別で専門職のリハビリを受けている事も一因ではないかと思われる。表1は併用利用者が1日の日課以外にやりたい活動に取り組んでいる内容である。利用者の比較として単独利用者22名中6名(27.2%)は、日課以外の取り組みをしており16名はあまり興味を持たずに実施していない。併用利用者9名中6名(66.6%)は活動以外の取り組みをしているが、3名は興味を持たずに実施していなかった。その事からも意欲に大きな違いが出ているように思われる。また体調不良にて長期間休まれていた利用者が再開時はADL低下も見られたものの、専門職のリハビリを受ける事で回復も早かった。その事からも通所リハビリとの併用効果が少なからず出ていると思われる。さらに隣接した事で一貫性のあるケアがやりやすい良い環境になったと言えるだろう。

今回の結果ではバーセルインデックスの数値的には大きな変化は見られなかったが、1日の活動以外に取り組んでいる利用者には大きく違いが出ている事が分かった。その事からもリハビリを受け身体機能向上を目標にしている利用者は高い向上意欲を持っているのではないかと思われる。今後も1日の活動以外の取り組みを利用者と一緒に考え取り組んでいくことが利用者の身体機能向上に重要である。これからも利用者が在宅生活の継続が出来るようにADLの低下防止や生きがい作りに取り組んでいきたい。